

## 基本目標3：誰もが役割を持つことができる地域づくり

### 取組6：支え合いの意識づくり



== 現状と課題 =====

#### ◇ 交流の場、居場所による地域のつながりの強化が求められています

- ・近年の社会環境や人々の意識の変化の中、地域のつながりが希薄化し、近所付き合いなどによる支え合いの意識が弱まっています。地域福祉を推進していくためには、市民が地域に関心を持ち、地域一人ひとりの地域福祉に対する意識を醸成することが必要です。
- ・隣近所や地域の人との声かけ、イベントや人々が集まる場での交流により、つながりをつくることも地域福祉の意識の醸成のために重要です。
- ・市民アンケート調査では、地域福祉への関心を持つ人は約69%で、前回のアンケート調査から増えていません。また、近所の人と親しい付き合いをしている人は約26%で、前回のアンケート調査に比べて約5ポイント減っており、近所とのつながりが希薄化しています。
- ・身近な地域の人に対してできる手助けや支援については、前回のアンケート調査に対してすべての項目で「できない」という回答が増えています。地域のつながりを強めるとともに、地域福祉への意識を醸成することが求められます。
- ・福祉関係団体と民生委員・児童委員へのアンケート調査でも、隣近所との交流、世代間の交流が少ないことが地域の大きな課題とされています。今後、地域で孤立する人を出さないために、地域のつながりを強化する活動に力を入れていくことが求められます。

== 目指す姿 =====

隣近所や地域の人々が、心だんからの声かけや交流によりつながり合い、助け合いや支え合いの意識が育まれ、多様な人々がお互いに尊重されながら暮らせる地域を目指します。

## 指標

指標名	現 状	目 標	担当
	令和2年度 (2020)	令和7年度 (2025)	
近所付き合いについて「ほとんど(もしくはまったく)付き合いはない」 (市民アンケート調査：24ページ参照)	10.2%	減少	福祉総務課
地域活動やボランティア活動に現在参加している割合 (市民アンケート調査：26ページ参照)	15.6%	増加	福祉総務課
地域で取り組まれているサロンなどの活動数	75	増加	高齢介護課 社会福祉協議会
地域福祉懇談会参加人数	－ (※)	600人	社会福祉協議会

(※) 新型コロナウイルス禍で未実施

## 市の取組

### (1) 地域福祉への意識の醸成

取組	内容	担当
啓発活動の充実	市広報や市ホームページ、「あげお市政出前講座」や公民館と連携した講座などにより、地域福祉やボランティア、子育て支援、多文化共生などについて啓発を図ります。また、「認知症サポーター」や「健康長寿サポーター*」など、各種サポーターやボランティアの養成講座を通じて、地域福祉の意識が高まることを目指します。	子ども支援課 福祉総務課 高齢介護課 健康増進課 市民協働推進課 市民活動支援センター 生涯学習課
ボランティア・福祉教育の推進	社会福祉施設などとの連携を図り、地域のつながりを一層強めるボランティア・福祉教育を推進します。また、福祉体験や社会体験活動を通じて、社会奉仕や思いやりの心を育みます。	指導課

## (2) 交流の場・居場所によるつながりづくり

取組	内容	担当
交流の場の充実（高齢者）	高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりのため、「いきいきクラブ」や、「老人だんらんの家」など、気軽に集まることのできる通いの場を確保します。	高齢介護課
交流の場の充実（障害者）	障害者施設や関係団体によるイベントを通じて障害者と市民の交流を図り、障害への理解を深めます。	障害福祉課
交流の場の充実（子ども・子育て）	子育ての不安を軽減できるよう、親子が遊びながら交流することができる親子教室などの場の充実を図ります。また、「放課後児童クラブ」や「放課後子供教室」を整備し、地域にある子ども食堂*などの活動を支援することで、子どもの居場所づくりに取り組みます。	子ども支援課 子育て支援センター 発達支援相談センター 青少年課 健康増進課 生涯学習課
多文化交流の充実	外国人市民との共生を図るため、意識啓発を行うとともに、「あげおワールドフェア*」の開催などを支援し、外国人市民との交流や相互理解を深めます。	市民協働推進課
世代間交流の充実	青少年育成連合会や子ども会の事業を通じて、地域活動における多世代交流を図ります。また、学校応援団*の活動や授業における昔遊び・交流給食などにより、交流機会の充実を図ります。	青少年課 指導課
スポーツ・レクリエーションの充実	幼児期から高齢期まで、性別、障害の有無を問わず、誰もがスポーツやレクリエーションに親しめるよう、スポーツ関連施設の維持管理、活動の活性化、関係団体への支援など、環境づくりに努めます。	障害福祉課 高齢介護課 みどり公園課 スポーツ振興課
交流の場の環境整備	公民館の活用、集いや憩いの場となる集会所や公園の整備のほか、地元団体と公園管理協定*の締結を図るなど、地域福祉活動の拠点となる場の提供や環境整備、維持管理に努めます。	福祉総務課 市民協働推進課 みどり公園課 生涯学習課
社会福祉法人が行う「地域における公益的な取組」の推進	市内の社会福祉法人が、地域団体や住民と連携して地域福祉の推進につながる取組を実施するよう、提案や働きかけを行います。	福祉総務課

## 社会福祉協議会の取組

取組	内容
ボランティア活動の広報・周知	ボランティア活動に関する理解と関心を深める活動を通じて、ボランティアへの理解と興味を高めるとともに、地域住民の福祉への意識の醸成を図ります。
福祉教育の推進	ふだんの暮らしの中の生活課題から福祉課題に気づき、そのことをさまざまな人と共に考え、実際に行動するための力を育むために、小中学校をはじめ、学校・企業・地域住民に対する福祉教育を推進します。
募金活動の推進及び社協会員加入の促進	寄付文化の醸成を推進し、福祉の財源を確保するために募金活動を進めます。また、自治会や町内会の会合などに参加し説明を行うことや、広報紙・社協ホームページ・SNSなどを活用して住民に各募金や社協活動の理解と周知を図り、募金や会員加入という形で地域福祉への参加を推進します。
ふれあい・いきいきサロンなどへ活動の支援	地域の住民同士が交流する場である地域交流サロンの立ち上げ、運営を支援します。また、サロンをはじめとする、地域の集いの場の情報を把握し、関係機関及び市民に対して発信し、つながりづくりの促進に努めます。
「地域福祉懇談会」の開催	地域福祉活動は、「すべての住民にとって望ましい地域づくりを、みんなが一体となって進めること」であり、生活福祉課題を協議し合い集約するための「地域福祉懇談会」を支部及び自治会などで開催します。
「地域福祉を考える集い」の開催	地域の課題を共有し、今後の地域福祉について考える機会とするために、「地域福祉を考える集い」を開催します。

## 地域で取り組んでみましょう

### 【市民】

- ・地域の中で顔を合わせる人とあいさつや声かけする関係をつくりましょう。
- ・地域で開催される福祉に関するイベントや講座、懇談会などに参加してみましょう。

### 【自治会・町内会・区会など】

- ・大人も子どももあいさつできる地域をつくりましょう。
- ・地域行事などの開催を通じて、地域の交流や世代間の交流を図りましょう。
- ・地域で日常生活における課題や困りごとを話し合い、意見交換や情報を共有できる場を持ちましょう。
- ・集会所や公園など、自分たちで使う場所は自分たちで維持できるよう努めましょう。

### 【社会福祉法人など】

- ・施設の一部を開放するなど、地域の交流の場の提供に協力しましょう。
- ・施設の高齢者や障害者と地域住民の交流を目的とした祭りやイベントの開催など、地域福祉の向上を目的とした活動「地域における公益的な取組」の実施に努めましょう。

### 【地域福祉懇談会】

社会福祉協議会では、社協支部と共催で、生活福祉課題について協議し合い、集約する場として、地域福祉懇談会を毎年開催しています。

13の社協支部によって生活環境も違うため、それぞれの支部でテーマを決めて、話し合います。地域の中での困りごとについて、こうして集まり、話し合うことで、「実はこの地域に共通する問題だった!」と改めて気づくこともしばしばあります。現在、実施されている社協支部による「見守り」「助け合い」「集いの場」などの取組の多くは、地域福祉懇談会において話し合われ、事業化したものと言えます。



これまで年に一度、支部ごとに開催してきましたが、複数の支部では「より身近な範囲での話し合いが必要」と考え、自治会単位の開催を行い、日ごろ社協の活動に参加していない自治会の方なども含めて意見集約をする動きも出てきています。

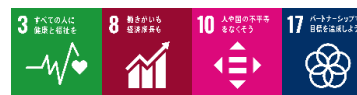
今後は、小地域（自治会などの範囲）での開催を社協支部とともに支援及び推進し、必要な社会資源の把握及び開発に努めていきます。

上尾市では、地域住民が主体となり、地域における既存の活動把握と評価、必要に応じた課題解決及び新たな資源開発などを推進していく場を「協議体」と位置付けています。

地域包括ケアシステムの構築をしていく上で、上尾市が社会福祉協議会に業務委託する「生活支援体制整備事業」における協議体の機能が「地域福祉懇談会」と言えます。







== 現状と課題 ==

◇ 健康づくりなどをきっかけとしたつながりや生きがいがづくりが期待されます

- ・国の推計によれば、令和元（2019）年の時点で 65 歳である人は、男性の 36%が 90 歳まで、女性の 16%が 100 歳まで生存するとされています。「人生 100 年時代」が近づいており、高齢者の健康維持や生きがいがづくりの重要性が高まっています。
- ・一方、隣近所や地域との関係や世代間の関係が希薄化しており、生活の基盤となる地域社会とのつながりを十分に持てないでいる高齢者が増えているという社会課題も生まれてきています。
- ・市民アンケート調査では、健康づくりに関する情報を充実してほしいと思う人が、4 割以上となっており、健康への関心の高さがうかがえます。
- ・健康づくりについては、健康を向上させるだけでなく、活動をきっかけにつなぎをつくることで、地域での生きがいを持った暮らしに結び付くことが期待されます。

◇ 地域福祉活動への支援と、深刻な福祉の担い手不足への取組が必要です

- ・福祉関係団体と民生委員・児童委員へのアンケート調査によれば、活動上必要な情報や活動についての PR、経済的な支援が望まれています。地域の福祉活動を活性化していくために、さまざまな支援をしていくことが必要です。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響の中、地域で活動する団体が、感染拡大防止を図りながら活動を継続できるように、支援をしていくことが必要です。
- ・福祉関係団体と民生委員・児童委員へのアンケート調査によれば、後継者不足の問題が挙げられています。メンバーの高齢化、参加者の減少、リーダーが育たないといった問題が深刻化しています。
- ・市民アンケート調査では、地域活動やボランティア活動へ「参加している」割合は 15.6% となっています。参加していない理由を見ると、参加方法がわからない、仲間がないなどが挙がっており、地域活動やボランティア活動へ参加するためのきっかけづくりが課題となっています。

== 目指す姿 ==

市民が交流や社会参加をしながら、健康や生きがいがづくりに励み、自分らしく暮らせる地域を目指します。

さまざまな活動をきっかけにして、地域へ貢献する活動への関心が高まり、地域活動やボランティア活動に関わる人が増え、地域福祉活動が活発な地域を目指します。

## 指標

指標名	現 状	目 標	担当
	令和2年度 (2020)	令和7年度 (2025)	
健康マイレージ新規参加人数	1,056人	維持	健康増進課
健康長寿サポーター養成講座受講人数	119人	150人	健康増進課
ゲートキーパー養成講座受講人数	70人	100人	健康増進課
認知症サポーター養成講座受講人数	380人	500人	高齢介護課
地域の担い手育成講座受講人数（累計）	458人	700人	社会福祉協議会
ボランティア活動参加者数	4,316人	4,600人	社会福祉協議会

## 市の取組

### (1) 健康・生きがいづくりの推進

取組	内容	担当
健康づくりの推進	各種健診の受診を促進するための周知や啓発活動を推進するとともに、健康・食事・運動に関する講座の開催や情報発信、定期予防接種による感染症のまん延防止など、市民の健康を守るための情報提供や啓発、迅速な対応に努めます。また、地域の集会所などで体操を行いながら高齢者の健康維持と交流を図ったり、ポイントを貯めながら楽しく健康づくりを行うことができる健康マイレージの普及啓発に努めます。	高齢介護課 健康増進課 保険年金課 スポーツ振興課
【重点項目】 フレイル予防・介護予防の充実	フレイルなど、地域の健康課題を把握・分析して、高齢者の健康づくりを支えます。また、高齢者が地域で健康に暮らし続けられるよう、アッピー元気体操などの介護予防を推進します。	高齢介護課 健康増進課 保険年金課
きっかけづくりの支援	定年を迎える人々が地域活動を始めるきっかけづくりとなるイベントや、市民活動団体を紹介する講座などを開催したり、市民活動・生涯学習の活動団体や情報について、市ホームページや情報紙、ガイドブックなどで提供し、きっかけづくりを支援します。	市民活動支援センター 生涯学習課
就労支援による社会参加の推進	シルバー人材センター、障害者就労支援センター、ハローワークなどと連携し、就労を希望する高齢者や障害者の社会参加を支援します。	障害福祉課 高齢介護課 商工課

## (2) 地域福祉活動への支援

取組	内容	担当
自治会活動への支援	地域コミュニティの中核を担い、自主防災活動、環境美化運動の推進、市や地域の情報提供のほか、高齢者が楽しみながら参加できるイベントの開催や地域の見守り活動など、高齢者と地域社会のつながりを維持し、社会参加を促進する自治会・町内会・区会の活動を支援します。	市民協働推進課
民生委員・児童委員活動への支援	民生委員・児童委員、主任児童委員が地域福祉活動の中核として活動できるよう、活動紹介や周知を行うなど、活動を支援します。	福祉総務課
通いの場への支援	地域で行われている「いきいきクラブ」や「老人だんらんの家」、サロン活動などの活動拡大や認知度向上を図り、活動を支援します。	高齢介護課
市民活動団体への支援	活動団体が自立するための支援や、相談・拠点探しの支援、交流会によるネットワークづくりなど、活動団体の活性化や継続した活動を図る支援を行います。また、地域課題を解決するため、市民活動団体と行政が協働して取り組む「協働のまちづくり推進事業*」を推進します。	市民活動支援センター
生涯学習団体への支援	学習拠点である公民館、人権教育集会所、学校開放施設などの環境整備に努めます。また、市民の学びの質の向上のため、情報提供や学習相談支援体制の充実を図ります。	生涯学習課
大学や事業者との連携促進	地域の課題解決、知的好奇心の向上や多様な学習機会の提供を図るため、大学や事業者との連携を促進します。	市民活動支援センター 生涯学習課
多文化共生活動への支援	上尾市国際交流協会(AGA)などの活動を支援し、「あげおワールドフェア」などの交流イベントの開催、日本語を母国語としない子どもへの日本語教室や学習支援を行う活動を支援します。	市民協働推進課
感染症に対する活動支援	正確な情報提供に努めるとともに、国のガイドラインに基づいた感染予防策や情報について、介護事業所や市民団体などが開催する通いの場などに周知し、運営を支援します。	高齢介護課 健康増進課
基金を活用した活動団体への支援	市民や法人・団体からの寄付金を積み立てた社会福祉基金を活用し、福祉に関する活動を行っている団体などに助成することで活動を支援します。	福祉総務課



### (3) 人材の育成・活用

取組	内容	担当
自治会活動への参加促進	地域活動の新たな担い手を育成するため、自治会・町内会・区会と連携しながら情報発信・共有を図ることによりネットワークの活性化に努めます。	市民協働推進課
民生委員・児童委員の育成	民生委員・児童委員、主任児童委員が地域福祉活動の中核として活動できるよう、研修などを通じて、各種制度や福祉サービス、関係機関との連携などへの理解を深め、資質向上に努めます。	福祉総務課
活動する人材の確保	地域福祉活動やボランティア活動、市民活動への参加を促進するため、周知啓発及び関係機関と連携した担い手の育成を図ります。また、活動を通じて社会貢献や社会参加したい人に対して、相談会や団体とのマッチングを行うなど、人材の確保に努めます。	福祉総務課 市民活動支援センター
生涯学習ボランティアの育成	生涯学習の成果を地域で活かしたい人にまなびすと指導者として登録してもらい、講師として活躍できる場を増やし、その資質向上を支援します。	生涯学習課
サポーター・ボランティアの養成	「認知症サポーター」や「健康長寿サポーター」「ゲートキーパー」など、サポーターやボランティアを養成し、人材の育成に努めます。	高齢介護課 健康増進課

### 社会福祉協議会の取組

取組	内容
高齢者に対する健康の増進、教養の向上	老人福祉センター「ことぶき荘」の管理運営を行い、地域の高齢者に対して、健康相談などに応じるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションなどにより、健康で明るい生活を送っていただくため、利用者に親しまれるサービスの向上に努めます。
ボランティアセンターによるボランティアの参加促進	ボランティア活動を始めるきっかけづくりとして、夏休みボランティア体験やフードドライブ*など、ボランティア養成講座を開催し、ボランティア人口の増加を図ります。また、市民からのボランティアに関する相談に応じ、積極的に活動機会へのマッチングを図ります。
地域の担い手育成の促進	生活支援体制整備事業（市委託事業）として、第1層（市内全域）・第2層（社協支部圏域）において、講座などの開催により、活動者の参加促進に努めます。
ボランティアセンター登録団体の運営費補助と活動促進	ボランティアグループに対して、必要な資金の助成を行うことで、継続的なボランティア活動の維持及び活性化を図ります。また、ボランティアグループとの連携に努め、福祉施設や団体などからのボランティア依頼に対するマッチングを適切に行い、活動促進を図ります。
社協支部活動の推進及び支援	地区内の住民が主体となり、地区における地域福祉活動の増進を図るため、社会福祉関係者が参加・協力し、住民福祉の増進及び小地域福祉活動への啓発・支援を行います。

### 【市民】

- ・地域の行事やボランティア活動に関心を持ち、周りの人を誘って気軽に参加してみましょう。
- ・自ら学んだ知識や経験、自分が持っている技術や得意分野を生かした活動に参加してみましょう。
- ・自分の健康に関心を持ち、定期的な各種健診の受診、健康講座や運動教室への参加など、健康づくりに取り組みましょう。

### 【自治会・町内会・区会など】

- ・子どもから高齢者まで、多くの人に参加しやすい地域活動や行事の開催を図りましょう。
- ・地域行事への参加、各種団体などが実施するイベントや講座への参加を呼びかけましょう。
- ・地域の中で活動する団体との交流や連携を図りましょう。

### 【団体など】

- ・団体や活動内容についての情報発信に努め、団体活動への参加促進を図りましょう。
- ・他団体との交流や連携により、活動の活性化や担い手の育成を図りましょう。

### 【社会福祉法人など】

- ・持っている資源やノウハウを生かして、地域の健康づくりに協力しましょう。
- ・ボランティア活動希望者や大学などからの実習生を受け入れるなど、福祉人材の確保や担い手育成に努めましょう。

## 【フレイル予防】

### ◆フレイルとは…

「フレイル」は、英語の「Frailty (フレイルティ)」が語源で「虚弱」を意味し、加齢により心身の活力が低下した、健康と要介護の中間の状態を指します。「身体」「こころ」「社会性」が虚弱し、放置すると要介護状態となる可能性があります。早めに気づき、適切な取組を行うことで、健康に戻ることができるとされています。近年では、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、多くの高齢者が外出（会話）しない、身体を動かさない、食事が偏るという生活が続くことにより心身の機能が低下する、「コロナフレイル」としても注目されています。

### ◆フレイル予防事業

市では、令和3（2021）年度から高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に取り組むため、フレイル予防事業を実施しています。高齢者に対する支援の内容は、フレイルリスクのある高齢者を対象とした「ハイリスクアプローチ」と、幅広い方を対象に通いの場などで行う「ポピュレーションアプローチ」に分かれて行います。「ハイリスクアプローチ」では、BMIが18.5以下や急激な体重減少など低栄養の可能性のある高齢者に着目し、栄養士による個別電話指導などを実施しています。また、「ポピュレーションアプローチ」では、市内3カ所の公民館で「学んで 気付いて 始めよう！フレイル予防講座」を開講し、栄養、運動、口腔（オーラルケア）について、栄養士、理学療法士、歯科衛生士などの専門家から直接、学ぶ機会を設定し、フレイル予防に対する意識啓発などを図っています。かつてない速度で高齢化が進むわが国では、介護に頼らず、自分の力で暮らせる「健康寿命」を伸ばし、一人ひとりがいきいきと輝くまちづくりの推進が急務となっています。市では、フレイル予防事業を通じて、市民の健康をサポートしていきます。



## 【ボランティアセンターによるボランティア活動への参加促進

～ “自分にもできる活動” を一緒に考えます！～

ボランティアセンターでは、地域住民のボランティア活動に関する理解と関心を深めていただくために広報周知を図るとともに、ボランティア活動の相談、登録、斡旋などを行っています。

地域活動などは、担い手不足と言われていますが、市民アンケートによりますと、地域活動などに参加していない理由として「勤務などの都合で機会がないから」「時間がないから」と回答された方が多くいます。

ボランティアをしたい方とボランティアを必要としている方とを結びつけるのが我々ボランティアセンターの役割です。



その一つが「夏休みボランティア体験」です。

ボランティア活動に興味・関心がありながら、なかなか参加の機会が得られなかった児童、生徒、社会人などにボランティア活動を体験してもらうものです。毎回、市内の福祉施設やボランティアグループなどの協力を得ながら、ボランティア活動の普及・啓発・育成を図っています。

また、日々のボランティア相談を受ける中でも、以下のような活動紹介のやりとりもありました。

市内に活動拠点がある子育て支援のNPO\*法人では、子ども服の交換会を定期的で開催しています。

ご家庭において、子どもが成長して着られなくなった洋服を無料でお預かりし、交換会の場にて必要ご家庭へ無料でお渡しする活動を通して、子育て世帯の方々同士のつながりを築き、孤立を解消する地域づくりを目指しています。

そこではさまざまなボランティアを募集しており、「30分、1時間、当日でも、事前でも、できる時間でできることがあります！」と交換会の開催ごとに運搬、設営、洗濯ボランティアなど、さまざまな形での参加を募っています。

先日、ボランティアセンターを訪ねてきた学生に対して、この活動を紹介しました。「子育てのボランティア活動なんて、全然考えていませんでしたが、自分の都合に合う活動もあるんですね。相談してよかったです。」と空いた時間で設営のお手伝いをしたそうです。



ボランティアセンターでは、さまざまなボランティアグループの登録をいただいているほか、施設などとのネットワークもあります。ボランティア活動に関心を持った方が、できるだけ活動の機会が持てるように調整に努めます。